

て日蘭通商の平和を毀却シブラジル亦日本移民の制限を酷にして往年の米國に倣へり、此の時に方りて國運最も危かるべき千九百三十五、六年の軍艦、國防危機は急流の谿谷を下り來るが如く滔々落々として既に眼前に在り、帝國非常時此の時を措いて亦何の時をか言わんや、更に眼を内に轉ず則政黨は黨利黨略の外に國家無く政權獲得を戰ふの外に又戰ふことを知らず、疑獄百出賄賂公行道義地を拂つて喧しく忠誠天を鎖して現われず政客政商の徒面を包んで爲さざるところなし、國民怒つて之を罵ると雖も遂に及ばず却つて自ら欺いて惡弊に狎し既成勢力に合流して眼前の利に走り而して漸く國家の非常時を忘る、上下交々利を征つて國危しとは維れ是を云ふなり

吾等茲に平素の公憤を鼓し周り同志を江湖に求めて決戰を既成勢力に挑み金剛不壞の大勇猛心を振ひ起して内憂の急を撲ひ併せて

外患に當るに赤手又自刀槍身に入り斃して後と雖も猶已まさらんと欲す本部已に中央に大義の旗を翻し檄を四方に飛ばし金鼓の響を急にして義團の奮起せんことを促すや切なり吾人之を迎へて之に應じて今茲に支部を結成及唯一死君國に報するの赤心と覺悟とあるのみ、何ぞ成敗利鈍を言わんや、吾人斷じて志を枉げざるなり

右宣言す

昭和九年七月三日

明倫會 福岡支部